



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

J R 東日本労働組合
発責 教育・広報部
2022年1月28日 No.397

将来にわたり「安心・安定」した生活ができるよう 賃上げの実現をめざそう！

2022年1月18日に経団連は2022春闘の経営側の指針となる「経営労働政策特別委員会報告」を発表しました。一方、連合は1月20日に「第2回中央闘争委員会」を開催し、春闘の進め方を協議するなど、2022春闘も本格的に動き出しています。

私たち東日本ユニオンもJRで働く労働者、組合員の生活や将来設計に必要な賃金を求め、定期昇給「昇給係数4」を勝ち取ることを柱とした取り組みをスタートしています。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から「人流の抑制」呼びかけていることから「通勤・通学」や「旅行」など鉄道利用の減少により、JR東日本も大きく収益が減少となっています。

このような業績不振を背景とし、2021春闘では、JR東日本発足後、初めて定期昇給が「係数2」となりました。このことは単年度の一時的な賃金の減額ではなく、退職金や生涯賃金にまで影響を残す結果となったことを忘れてはなりません！

経営側は業績悪化と働き方の変化など、世の中の動きに乗り遅れないように経営施策である「変革2027」の更なるスピードアップをめざし、矢継ぎ早に新たな施策を打ち出していることにより、労働密度は賃金と反比例して上がっています。

将来の生活設計に対する賃金面での不安

様々な会社施策実施による働き方への不安の声が職場では聞こえてきています。

『変革2027』における新たなジョブローテーションの実施や「駅の変革」「現業機関における柔軟な働き方の実現について」など、多様な働き方に応える施策がある一方で、社員が将来にわたり安心・安定した生活設計（住宅購入や育児・介護等）を描くことができるのでしょうか。生活の安心・安定は仕事のモチベーションにもつながります。

30才、主任職で定期昇給の減額による影響は

「昇給係数4」であった場合

昇給額 5,900円 × 12ヶ月 × 30年 = 212万4千円

「昇給係数2」による生涯賃金への影響

昇給額 3,000円 × 12ヶ月 × 30年 = 108万円



退職するまで **104万4千円**の減収になり、超勤分や期末手当も加えるとさらに大きな差となります！

**今こそ、労働組合＝東日本ユニオンに加入し
定期昇給「係数4」の実現を勝ちとろう！**